

5月17日に医師・歯科医師向け講習会

遺伝子検査と薬剤・サプリメント併用の「免疫調整療法」

インターフェロン発見者の小島保彦氏が治療法を解説

日本統合医療普及推進協会（代表幹事：伊藤道代）は、5月17日に医師・歯科医師向けの実技講習会を開催する。講習会ではインターフェロン発見者として世界的に知られる小島保彦氏（写真左）をはじめ、日本大学生物資源科学部准教授の桑原正人氏（写真右）、他臨床医らを講師に、遺伝子検査を踏まえて薬剤とサプリメントを併用する「遺伝子免疫調整療法」をテーマに開催する。講習会では、検査・診療の概要と流れを解説するほか、保険診療との併用方法や患者への告知策など、日常診療に導入するための具体策をレクチャーする。本頁ではメイン講師の小島氏が提唱する「遺伝子免疫調整療法」の概要を紹介する。

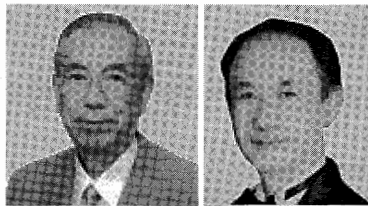
植物素材が免疫系ネットワークを調整する

NPO法人インターフェロン・ハーブ研究所 小島保彦

近年、免疫系の研究が目覚ましく進歩し臨床に直結して成果を出すことが注目されるようになってきました。リウマチの治療に革新をもたらした分子標的薬の登場はその好例でしょう。これからの医療は免疫の調整という従来はあまりうまくいっていなかった分野も可能にしていくと思われれます。統合医療は正にその分野で活躍できる可能性を秘めています。これからは詳細なエビデンスに則った、より具体的な統合医療の道が開けていくことでしょう。

■自己のインターフェロンを誘発

私は、インターフェロン（以下IFN）を発見した後、生体に自己のIFNを産生させるIFNインデューサーの研究を進めました。高価なIFN製剤に比べ、安価で大量生産が可能であり、



また副作用もほとんどない、と考たからです。IFNインデューサーの研究では、漢方の大家であった大塚敬節先生のお力添えも頂きながら、世界で初めて高力価のIFNインデューサーを数十種類発見することができました。

スクリーニング中、実験が容易な培養細胞や血中リンパ球などではIFNは産生されず新鮮なマクロファージのみが生薬の高分子を捉えIFNを産生しました。

この結果はinvivoで通用し、自然免疫、粘膜免疫の強化が可能と判断しました。実際、動物実験でも多くのウイルスを抑制しました。それらの研究成果から最高力価の素材を組合せ「インターナチュラル」というブランド名で医家向けに提供されています。

IFNインデューサーの特徴は幅広いウイルスに対応することからウィルス病の予防や補完医療に適しているほか、免疫疾患の対応にも使用されています。

■TGF-βをマーカーとする

サイトカインの1つであるTGF-βは、細胞の分化や増殖に関わったり炎症を惹起し修復に関与する面もありますが、最近では循環TGF-β(活性型)が様々な疾患の引き金になっていることもわかってきました。特に大動脈乖離や急性動脈破裂では遺伝的要因に加えTGF-βが高値になると動脈内皮に裂け目（tear）ができると発表され、TGF-βを検診マーカーにしようと提唱する臨床家も出てきています。

また、遺伝子病のマルファン症候群においても同様な発表がなされています。アレルギーや腫瘍、歯肉炎などでもTGF-βは高値を示します。共同研究者の桑原正人先生（日大）は担子菌類の成分中にTGF-βを顕著に抑制する物質を発見しました。アトピー性皮膚炎の患者14名に70日間投与し65%の患者が顕著に抑制されています。内服のサプリメントでは世界初の発見です。

■Th 1, Th 2, Th 3のバランス調整

自己免疫疾患やアレルギーでは長い間Tヘルパー細胞ファミリーTh1とTh2のバランスをとることが試みられてきましたが、顕著な成果を出せずにいました。前述しました桑原先生はTh3という新たなファミリーを検討に加え、Th3を最初に抑制するとTh1とTh2のバランスが非常にとりに

よくなることを発見しました。

そして、患者から採血を行い全血からTh1.2.3を分離し、血漿からはTGF-βを測定するという新しい手法を導入しています。これで個々に違う免疫状態を把握しオーダーメイド的に段階を追って、主にサプリメント数種類で調整していくステップ療法が確立されました。これはTh1優位の自己免疫疾患やTh2優位のアレルギーに有効な統合医療です。

■遺伝子修復の蛋白質ドメイン

また、細胞核内には遺伝子を自動修復するジंकフィンガーと呼ばれるタンパク質ドメインが存在し注目されています。このジंकフィンガーの機能を応用したり、遺伝子操作により遺伝子を修復する研究も始まっています。既にマウスでは成功し、5~10年先には実用化が期待されています。桑原先生はアトピーの治療患者13名中4名にフィラグリン遺伝子欠損者が認められたため、ジंकフィンガーを有効にするサプリメントを開発しました。その4名の患者にサプリメントを70日間連続投与したところ、1名の患者にフィラグリンが発現してきたことから、現在も検証を行っています。

実技講習会の概要

- テーマ：遺伝子免疫調整療法
- 日時：5月17日（木）18：20～20：30
- 会場：東京八重洲ホール301
- 会費：事前申込み20,000円、当日25,000円（資料代・お弁当・製品サンプル込み）
- 申込先：日本統合医療普及推進協会 TEL/FAX：03-3868-3714
- お問い合わせはメールで。 E-mail：japim@yj8.so-net.ne.jp

日本統合医療普及推進協会 実技セミナーのご案内

5月17日（木）18：20～（東京八重洲ホール）

免疫調整療法導入セミナー

ウイルス・免疫療法

自己のIFNを産生させることで副作用がなく治療を解説します。

アレルギー、自己免疫疾患、歯肉炎

- ・TGF-β抑制、Th-1、Th-2、Th-3コントロール
- ・遺伝子検査

患者にやさしい治療法、貴院への導入策を提案!

遺伝子検査から検査値の解析、治療手順、サプリメントの応用など、治療法のすべてを解説します。



セミナー概要

- 18：00～18：20 あいさつ（小島保彦）
- 18：20～19：20 免疫調整療法について（桑原正人）
- 19：20～19：50 夕食（ビデオ上映）
- 19：50～20：30 免疫調整療法の導入について（NPOインターフェロン・ハーブ研究所理事）

※受講者には、資料と製品サンプルをお渡しします。

日本統合医療普及推進協会 実技講習会参加申込書 FAX 03-3868-3714

氏名	フリガナ	所属	TEL	<input checked="" type="checkbox"/> して下さい。 <input type="checkbox"/> 医師 <input type="checkbox"/> 歯科医師
		住所	FAX	